

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 1
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。

平成28年9月の優しさ通信



脳を光で自在に制御 光遺伝学、東北大など研究進む

脳梗塞 仕組みの一端解明

動物の脳にある神経細胞の働きを、生きたまま制御する光遺伝学の研究が進んでいます。光に反応するたんぱく質を神経細胞に組み込み、光を使って活動を自在に操ります。

東北大は、脳梗塞で脳の神経細胞が死滅してしまう仕組みの一端を解明しました。脳梗塞の悪化を防ぐ薬を作る手掛かりになるとみえています。

慶大チームは、仕事や勉強のやる気がなくなる仕組みを突き止めました。うつ病などの治療法開発につなげます。

名古屋大学は、緊張する仕組みを探りました。緊張感が続く原因不明の神経難病の治療に役立てます。

(2016年8月1日 日本経済新聞記事から抜粋)



社会保障給付費 112兆円 2014年度 1.3%増

介護伸び最高更新

国立社会保障・人口問題研究所は、2014年度の年金や医療、介護などの社会保障給付費が前年度比1.3%増の112兆1020億円だったと発表しました。過去最高を更新し続けています。医療が36.3兆円で2.0%増、年金は54.3兆円で0.5%減、「福祉その他」は21.4兆円で4.6%増でした。

(2016年8月6日 日本経済新聞記事から抜粋)



家族の怒り、日ごと増す 相模原殺傷 1か月

「障がいは個性」前向く

「障がいは個性。なくなってもいい命なんてない」

「障がい者もちゃんと頑張って生きていける。そういう世の中なんだ」

(2016年8月26日 日本経済新聞記事から抜粋)

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 2
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。



今月の福祉用具－移動関連用具

その1 車いす1

車いすとは

- ・最近では長時間座り続ける人も増えていて、長く過ごす人にはいすとしての機能も欠かせません。
- ・座位がしっかりと保てるようにすることも大切です。
- ・身体を車いすに合わせるのではなく、車いすを利用者の身体の状態や体形に合わせたものでなくてはなりません。

車いすの構造

- ・フレーム（骨組み）の構造は折り畳み式、固定式、分解式のものがあります。
- ①グリップ（握り）
 - ・車いすを押すときに介助者が握る部分。
 - ・坂道などが多い所では、介助者用の手元ブレーキを付けることがお勧め。
 - ②バックレスト（背もたれ）
 - ・固定式とリクライニング式があります。
 - ・バックレストの高さは肩甲骨の一番下の位置が一つの目安です。
 - ・上半身が安定しており、活動的な場合は少し低めに設定します。
 - ・リクライニング式では頭までの高さがあるものが一般的。
 - ③大車輪（駆動輪）
 - ・自走用標準型車いすは大車輪（駆動輪）が後方にあります。
 - ・タイヤは普通の自転車のタイヤと同じ太さのものが多く用いられ、空気入りのタイプと中空部分がないソリッドタイヤがあります。
 - ・屋内など平らな場所での使用では、空気を入れる必要がないソリッドタイプがお勧め。
 - ④ハンドリム（駆動握り）
 - ・大車輪の外側に固定されたタイヤよりひと回り小さい輪のこと。
 - ・両手で回して大車輪を回転させます。前に回せば前進し、後ろに回せば後退します。
 - ・片方のハンドリムを回せば、回した側と反対に方向転換ができます。
 - ・冬場などでは、金属製のものよりもプラスチック製のほうが手が冷たくなりません。
 - ・握力が低下した場合には、ゴムなどの滑り止めを巻いたり、波形を付けたりして操作しやすくします。
 - ⑤ティッピングバー（前輪昇降バー）
 - ・介助者が段差越えの時などに、このバーを足で踏んで前輪キャスターを持ち上げます。
 - ・バーは長めの方が踏む力は少なく済みます。

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 3
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。

・自走用として使用するときには後方転倒防止用の安全装置となるものもあります。

⑥ブレーキ

・左右の大車輪のそれぞれにブレーキがついています。

・レバー式とリンク式があります。

・後方車輪のタイヤを直接抑えるものが一般的なため、タイヤの空気圧をいつも注意していないとブレーキの利きが悪くなります。

⑦キャスター（前輪）

・一般に車いすの前輪はキャスター（自在輪）で、普通はソリッドタイヤです。

・キャスターの役割は、方向転換、回転などの走行を自由にします。

⑧フットレスト（足台・足のせ）

・車いす使用者の足部を支える部分。

⑨アームレスト（ひじ掛け）

・肘を置いたり、座位のバランスを補助します。

・乗り降りするときの支えになり、動作が安定します。

・標準タイプとデスクタイプがあり、それぞれ固定式、取り外し式、両開き式があります。

・高さは肩の力を抜いて腕を下げ、肘を直角に曲げた位置より1～2cm高めにします。

・高すぎると肩が押し上げられ疲れます。

・低すぎると肩が下がり、前傾姿勢をとるため疲れやすくなります。

⑩シート（座面）

・座席の部分。一般的に使用者の腰幅に4～5cmの余裕を持たせます。お尻の横で掌が両方とも入るくらいのゆとりが必要です。

・奥行きは、膝の裏がシートに当たらないように2～3cm短くします。

・奥行きが長い場合、血行障害、皮膚の損傷のもとになります。

・奥行きが短い場合、お尻にかかる圧力が大きくなり、ずり落ちやすくなります。

・シートがお尻と太ももに添い、体重を分散させることが大切です。

⑪レッグレスト

・下肢が後方に落ちないように支えるベルト。

・車いすの移乗の際、邪魔になることもあるので不要であれば取り外すこともできます。

（参考：福祉住環境コーディネーターテキスト&福祉用具専門相談員研修用テキストより）

